

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072501097		
法人名	特定非営利活動法人わだの家		
事業所名	グループホームわだの家		
所在地	飯田市南信濃和田518-1		
自己評価作成日	平成24年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市市上13-5		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切にし、その人の持てる力を最大限に引き出し、毎日の生活が楽しく自分らしく生きられるよう支援している。
また、恵まれた自然と環境の中で地域住民から支持を得、四季折々の行事の他毎日の生活において活発な交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の誉れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年4月に開所した以降、次の年から外部評価を受け、今回で6回目となる。自己評価は、職員全体で取り組み、評価を受けたあとは、改善点や期待したい内容について話し合い、みんなでより質の高いホームをめざす姿勢がある。理事長・管理者・職員の関係は良好で、開所当初からなごやかな雰囲気があり、職員の研修や資格取得にも積極的に取り組まれている。地域との関係も協力を受けるだけでなく、法人のふれあいセンターを活用したり、一人暮らし高齢者を見守りするなど、ホームの力を地域に還元している。経験を重ねるなか、地域での法人の社会的活動が広がっている。今後も、この地域にあったホームの役割を担っていかれること、一人ひとりを大事にした支援を充実されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を察している (参考項目:2324,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、開設時に当時の職員が作ったが2年後に見直しを現在に至る。地域に密着したサービスを提供するという理念を大切に、学習会の折に毎回確認して実践につなげている。	職員会議で、記録係が理念を読み上げ、日頃の介護で気になったことを話している。今年度は“あいさつは大事。きちんとあいさつをして一日を気持ちよく”という年間目標を立て取り組み、以前よりあいさつができるようになってきた。毎月読み合わせをすることによって、職員も理念を意識している様子が伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達とは、日頃から近所付き合いをさせて頂き、利用者や地域の人達とは日々の生活に於いて交流を深めている。また、行事の折には地域の方達にも参加して貰っている。	法人で行っているふれあい事業で地域の人たちと交流、。敬老会や紅葉狩りなどの行事には地域の人にも参加してもらうなど、交流の機会がある。日常的には、隣の家でお茶を呼ばれたり、近所から野菜等をいただく、五平餅やお寿司をホームから届けるなどの付き合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会や実践から得た知識をもとに、認知症の人を抱える家族や地域の人達からの様々な相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員には様々な職業の方がおり、専門的な助言や意見を頂戴することが多い。委員からの提言により屋外に火災を知らせるベルと非常回転灯を設置したり、災害協力協定も行っている。	民生委員・町づくり推進委員長・消防分署長経験者・地元住民・家族代表等で構成され、地域の情報や災害対策では防災訓練に消防署職員に参加してもらったほうが良いなど、アドバイスや意見をもらっている。4月には、お花見に参加してもらい入居者と交流する機会をもち、理解を深めてもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 平成24年11月22日	飯田市介護高齢課、地域包括支援センターとは密接な連携を持ち、常に指導をいただいている。平成23年8月には、介護高齢課の指導監査を受審している。	運営推進会議への包括支援センター職員の参加だけでなく、必要時には介護高齢課に連絡をとるなど行っている。法人で居宅介護支援を行っていることもあり、関係機関との連携はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びスタッフ全員が身体拘束の弊害を正確に認識し、身体拘束をしないという信念は特に強く持ち、施設はもちろん言葉などあらゆる拘束をしない取り組みを実施している。	「身体拘束廃止宣言」をホームとして打ち出しており、宣言書は玄関の見やすいところに掲示されている。11月の職員会において、「権利について・虐待について・不適切なケアについて」の学習を行い、言葉による拘束など自分たちの日頃のケアを振り返った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会において虐待防止について学び、職員による虐待を徹底防止すると共に、職員が気づきにくい言葉の虐待等防止にも取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護サービスを実施するにおいて、権利擁護は重要事項として取り組んでおり、その人らしい生活を送っていただけるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項説明書により分かり易く説明をし、利用者や家族の理解を得られるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成24年に家族会を結成し定期的に会議を開催し、家族の意見や要望を聞いている。また、意見をためらう家族の気持ちを察し、各種行事の折に家族の方からさりげなく意見や要望を聞くように心掛けている。	家族会が結成され、運営推進委員会への出席とあわせて、意見や要望を聞く機会が増えた。会議だけでなく、行事への参加やホーム訪問の際には、日常会話のなかで、要望等聞くように心がけている。家族会では、ボランティアで作業を行なう意見がたされ、実施予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において、運営等に関して意見を話し合ってもらい、職員の働く意欲の向上と質の確保に活かしている。	職員会議で出された意見や提案を検討している。最近では、交代で休憩時間をきちんと確保できるように、勤務体制の見直し・変更を行なった。また、管理者が職員一人ひとりに声をかけて、意見を聞くよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善事業により給与改定に取り組んでおり、給与水準の引き上げを実施している。本年9月には就業環境について職員会議に於いて話し合いを行い、休憩が完全に取れるように決定した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には、職員が学びたいテーマを決め、それにあつた研修会等に積極的に参加をしている。また、日常の業務遂行の過程においてより良い介護技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山間僻地のため、他の事業所との交流は簡単ではないが、1施設との交流は開設以来続けており、1昨年から1施設加わり、3施設交流を実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを大切にするため、真摯な気持ちで向き合い、信頼関係を築くことに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、困っていること不安に感じていること、どのような介護を望んでいるかを話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような思いなのか、どのような介護を望んでいるかを明確にし、目標を定めてケアプランを作成し、サービス提供を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も一つ屋根の下で暮らす家族という気持ちで生活しているが、家族との繋がりが希薄にならないように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族、それに職員が互いに連絡を密にし、共に支えていくという関係を築いている。本年初めて家族会を実施し、一堂に会して話し合いをすることが出来た。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大事な場所、生家訪問や先祖の墓参りなどを行い、なじみの人達や場所との関係を深める支援を積極的に実施している。	入居者のほとんどが、この地区出身で、友人や知人宅・生家への訪問、お墓参りなど希望に合わせて支援している。花火大会見学や初詣なども、今までの生活の延長で馴染みの場所である。家族や親戚・知人等の来訪も積極的に受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大人教でできるゲームをしたり、散歩や外気浴など、利用者同士が関わり合い支え合うような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在人所している施設を訪問してお話したり、亡くなられた利用者の墓参りに行き、残された家族との関わりを断ち切らないでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや希望に関心をもち、利用者本人から毎日の生活の希望を聞いたり何を望んでいるかさくみ取り、利用者一人ひとりの思いを大切に支えを心掛けている。	センター方式を使って、生活歴や本人の希望等をまとめている。日頃の何気ない会話や、意識的に声をかけることによって意向や希望を把握するよう心掛けている。利用者の思いがどうしてもわからない時は、24時間シートを活用して、職員みんなで取り組み理解に努め支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりが自分らしく暮らすことを支援するために、その人の生活歴を知り、暮らしてきた環境を把握し、サービス提供の基礎にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりの過ごし方や心身状態、その人ができること、持っている力を見つけ出す努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族、関係者の意向や意見を尊重し、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら本人が快適で自分らしく生きるためにチームケアにより作成している。	担当者制にして、担当者と計画作成者との話し合いやケア会議で、介護計画を作成している。家族には訪問時に説明をして意見を聞き、本人からの希望も確認しながら計画に反映させている。3ヶ月ごとに見直しを行っている。	介護計画の作成とモニタリングをチームで行い、利用者本位の介護をすすめている。今後、さらに利用者理解を深め、よりよく暮らしていける支援に向けて、日々の記録を充実させモニタリングに反映させ、より現状に即した介護計画を作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いくつかの記録の中に個人別記録簿があり、日々の様子やケアの実践、気づきなどが記録されており、職員間で共有し介護に活かし、さらに介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応して臨機応変に幅広い支援を行っており、柔軟で多様なサービスに心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の特性から、環境と周辺住民に恵まれ、安全で安心して豊かな生活を送ることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望により適切な医療を受けられるよう支援している。また、協力病院との連携により、病状にあわせて適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、家族や本人の希望を大切に決めて、受診の支援を行っている。日頃の状況がわかっているため、職員が家族と一緒に通院に付き添ったり、電話連絡を行い、かかりつけ医や協力医との関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師資格者の職員が常に医療機関との連絡を密にし、適切な医療を受けられる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院についてもかかりつけ医を通し、安心して治療を受けられ早期に退院できるよう情報交換を密にし、よい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで看取りの経験はないが、看取り指針の策定や職員間での協議等、終末期に向けた方針と対応は整っている。また、重度化した場合の方針を家族と話し合いを実施している。	前回の評価で重点項目にあげ取り組んできていた。職員間では、ターミナルケア指針の共通理解がされている。家族に対してのアンケートは実施し、説明会も開いてきたが確認書を全員とかわすまでには、いたっていない。最近、急変して亡くなった方の事例があり、職員間では、支援方法の徹底がされている。	地域に往診対応をする医院が開所されホームで、できることの範囲が広がるなか、家族が安心して今後のことを検討できるよう、引き続き説明や話し合いをされることが望まれる。また、職員も安心して支援できるよう、具体的な学習会を行うことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医から、急変時の対応について指導を受けたり、看護師資格を持つ職員から常に指導されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	避難訓練等を実施するほか、近隣住民との災害時における救援連携が整っており、非常時には1分以内に駆けつけることができる体制ができています。施設内はスプリンクラーを整備し、安全対策に取り組んでいる。また、災害の発生に備えて物品を備蓄している。	最近では、7月に近隣住民も一緒に避難訓練を行っている。その際には、どんな利用者がどの部屋にいるかの確認、車いすでの避難の練習などを行った。近隣住民との災害協定は、個々人と結び、実際に1分以内で来れる距離である。次回は、消防署職員の参加依頼を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活を支援すると共に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。優しい言葉遣いの学習会を実施している。	昨年の外部評価を受け、特に言葉遣いや言葉かけを振り返り、意識的に取り組んできた。言葉遣いの学習会を、具体例を挙げながら実施して、お互いに注意をしあい、一人ひとりを尊重した対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で、本人の思いやしたいことを聞き、何を選択するのか本人の意志を確認する支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生き方や思い、ペースを優先し、その人らしい生活が送られるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを本人が選んだり、季節やその折々にあった身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節折々の郷土料理が好評で、材料づくりから調理までその人ができることを分担し楽しむことができるよう支援している。また、片付けや台拭きなどもできる人が職員と一緒にやっている。食事の嗜好調査も定期的に行っている。	嗜好調査や、残した物のチェックをして好みを把握している。畑の野菜づくりも含めて、野菜の下ごしらえ、調理、後片付け、台拭きなど、できることを一緒に行っている。外で行う焼肉、五平餅、栗おはぎ、けんちん汁、長巻の寿司など馴染みや季節の献立を取り入れる、年2回外食するなど、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量を把握し、栄養バランスを考慮し楽しい食事の時間になるよう支援している。また、管理栄養士による栄養スクリーニングも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの支援を行っており、自分でできない人には職員が専用ブラシでケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員が、一人ひとりの排泄パターンを把握し、介護プランに基づいたトイレ誘導を行い、オムツに頼らない排泄の自立に向けた支援を行っている。	寝たきりの利用者は、オムツを使用しているが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声をかけてトイレ誘導する、夜間はポータブルトイレを使用するなど、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に配慮し、野菜や繊維質の多い材料を用いた料理に心掛け、便秘予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望に添った入浴に心掛け、入浴剤により楽しい入浴になるよう配慮している。また、入浴時間においても希望により就寝前に入浴などにも対応している。	毎日用意をして、午後に希望を聞きながら、3日に1度は入浴できるように支援している。入浴剤を使い、楽しくゆっくり入れるよう工夫している。座位保持が困難な利用者は、2人、時には3人で介助して、安全・安楽に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や活動状況、自然なリズムを把握し、そのときの状況に応じた休息や、気持ちよく睡眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、薬の目的や副作用等について全職員が理解し、飲み忘れや後薬を防ぐ取り組みを行っている。また本人の状態の経過や変化記録を医師へ情報提供し、治療や服薬に活かす取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のタミや、食事の材料づくり、買い物や掃除など、やりがいを感じることができるよう支援し、またその人が好きなことをしたり、好きなものを食べられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、善後には行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、知人を訪ねたり行きたいところへいつでも出掛けることができる支援を行っている。また、家族とのお花見、花火見学、地域の人連との敬老の日の演芸大会など、家族や地域の人々との交流を実施している。	敷地内には藤棚やベンチ、前には畑もあり、日常的に近くを散歩したり、外に出て楽しめるよう支援している。お花見、藤見の会、紅葉狩り、地域の行事への参加など、外出の機会を作っている。家族や知人、地域の人たちの力を得て、お墓参り、家や知人宅を訪問するなど、希望を聞いて行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持ち、好きなものを買うことができる支援を行っている。また、お金の管理ができない人には、自分で欲しいものの買い物に出掛ける支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、家族と電話で話しをするよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を使った温もりや懐かしさが漂う住居で、共有部分はどこの家にもあるような居心地のよい空間となっている。また、季節の花や写真を飾って心が安まる空間づくりに努めている。	15畳の和室に炬燵が置かれ、昼食後には何人かの人がそこで休まれ、和やかな雰囲気だった。室温、湿度の管理は、エアコン・加湿器で調整され、快適に暮らせるよう配慮がされている。雑誌や本等が置かれ、菊や身近な写真を飾り、季節感や生活感のある空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったもの同士が過ごせる大広間、玄関先の休息場。また所々に置かれたイスやソファは一人きりになれる居場所になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切にしつつも、和室を用意し田舎暮らしに慣れたお年寄りがゆったりと過ごしやすいようになっている。また、使い慣れた家具や好きなものを持ち込める十分な広さが確保されている。	位牌、若いころの写真、タンスなど、使い慣れた家具や馴染みのものが置かれ、それぞれが居心地よく過ごせるよう配慮がされている。和室もあり、それぞれの好みで暮らせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、使い慣れた家具を持ち込ることができる広さがあり、居心地のよい自立した生活を送ることができる。また建物内部は、段差がなく、床暖で安全で快適な生活を送ることができる。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	地域に往診対応をする医院がありホームで出来る事の範囲が広がる中、家族が安心して今後のことが検討できるよう、引き続き説明や話し合いをされることが望まれる。また、職員の安心して支援できるよう、具体的な学習会を行なう事を期待したい。	利用者や家族のニーズを取り組み、事業所として出来る事を明確にして、家族、医療関係者等と連携を図りながらチームで支援していく体制を作る。	重度化や終末期のあり方について医療関係者等との連携を図り、具体的な学習会を実施する。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。